

STALLIONS

CLUB

2021

特集 Feature

List of the horses selection
Review of Stallions

List of the horses selection —Part 1—

丹下 日出夫

エールデュレーヴの20 / コルコバードの20 / アドマイヤードの20
/ アウエイクの20 / シンハリズズの20

古谷 剛彦

メジロシャレードの20 / ディアデラノビアの20 / ラカリフォルニーの20
/ ハルティトゥーラの20

村本 浩平

メジロシャレードの20 / エステイタートの20 / ビットレートの20
/ シーザリオの20

エールデュレーヴの20	エビファネイア 鹿 2010	*シンボリクリスエス 黒鹿 1999	Kris S. Tee Kay	Roberto Sharp Queen Gold Meridian Tri Argo
	シーザリオ 青 2002		スペシャルウィーク *キロフプリミエール	*サンデーサイレンス キャンペンガール Sadler's Wells Querida
	エールデュレーヴ 黒鹿 2013	ディープインパクト 鹿 2002	*サンデーサイレンス *ウインドインハーヘア	Halo Wishing Well Alzao Burghclere
		*レーヴディマン 黒鹿 2001	Highest Honor Numidie	Kenmare High River *バイアモン Yamuna

*サンデーサイレンス 3D×4S, Halo to Reason 5S×5D

●丹下 日出夫

エビファネイアの息子エフフォーリアは、皐月賞を完勝、ダービーは鼻差2着。差は10センチ：夢にうなされ悶絶した方もいらっしやるでしょうが、同馬の出現以来ワタクシも、他のクラブの1歳馬募集やセレクトセールでもエビファネイアの仔に目が釘付け。エビファネイアは世代を更新するたび、その子供たちは目に見えてスケールアップしています。

同産駒エールデュレーヴの20(牡)は、母母が愛1000ギニー馬ベスラーの姉妹、近親はレーヴドスカー。母は阪神マイルで新馬勝ちを決め桜花賞も頭にチラついたが、クラシックと重賞は浅き夢に終わった。体質が弱く、全能力を出し切れないまま3勝で引退したが、血統構成は異なるもののエフフォーリアの母ケイティーズハートの戦績(3勝)とよく似ている。エビファネイアという種牡馬は、少し停滞気味の休眠状態な血統に息吹を吹き込み、活性化させる——そんな生命力が宿っているのかもしれない。

1歳世代からモーリス産駒を見直し、コルコバードの20(牡)に興味津々。モーリスはドラマチックで不思議の多い馬だったが、種牡馬となってスタート当初は連敗続き。しかし8月をすぎると、あれよあれよの快進撃、いつの間にか

間にかファーストクロープサイアーの首位争いを演じる不思議。現2歳はあまりピンとくる馬は見かけなかったが、1歳および当歳はハツとする活力に満ちた馬をあちこちで目にした。母コルコバードのデビューは2歳8月の新潟。2↓1着とときてクラシック路線に乗りかかったが、本格化は長丁場に路線を定めた4歳暮れから5歳にかけて(エリザベス女王杯にも出走)。モーリスの頑丈な筋肉と闘志を注入、マイルからクラシックディスタンスまで、母よりワンテンポ成長が早く、2↓3歳早期から動けるバージョンアップはないもんか。

ロードカナロア産駒はアドマイヤリードの20(メス)を推奨。母はヴィクトリアマイルを串刺し。小柄だがタフにレース数を消化し9Fでも3勝を挙げた、母の父ステイゴールドの香りもする根性娘。阪神JF・桜花賞はもちろん、オークスまで展望できる、万能力ナロア牝馬の登場をみたい。

ハービンジャー産駒、アウエイクの20(メス)は、母の全姉はオーマイベイビー、その仔ステラヴェローチェは皐月賞・ダービーともに3着。3歳春のオークスを目標に一発長打あり。シンハリズズの20(メス)は、リアルインパクトの配合。母はどんな父を配合しても、たとえ小さく出ても、何でも結果を出してくれます。

●古谷 剛彦

今年の2歳馬が初年度にあたる種牡馬の産駒の勝ち上がり非常に多い。ホッカイドウ競馬を皮切りに、地方競馬での産駒勝ち上がりはそれほど目立たなかったが、中央競馬の2歳戦が始まった途端、アメリカンペイトリオット産駒が最初に勝ち上がり、ドレフォン、シルバーステートなど続々と勝ち馬を送り出した。8月1日現在、中央競馬でのファーストシーズンサイアーランキングで首位に立つドレフォンは、4頭が勝ち上がり、取得賞金でシルバーステートに16万円の微差で上回る。差がなく続くシルバーステートは、5頭の産駒が勝利を収めている。その他、アメリカンペイトリオット、イスラポニータ、ディーマジエスティが2頭ずつ、サトノアラジン、ビッグアーサー、キタサンブラック、ロゴタイプ、ザファクター、トーセンレーヴ、ポアゾンブラックが中央での産駒Vを果たしている。

地方競馬ではコパノリッキー産駒が最初に勝ち上がったが、先述した新種牡馬のラインアップを見ると、改めて芝で良さが出ている種牡馬が多い。特に、ドレフォンは、自身がBCスプリントの覇者で、ダートのイメージが強い人も多かったと思うが、配合牝馬がクラシックを意識できる欧州血統も多

く、様々なタイプを送り出している。牝系の良さを引き出す種牡馬は、産駒の馬体も良い意味でバラつきがあり、種牡馬としての可能性を感じさせる。その点でも、ドレフォンは、2世代目となる1歳馬たちも、125頭の血統登録があり、期待の大きさを物語っている。メジロシャレードの20(メス)とディアデラノビアの20(メス)は、クラシックを意識できる牝系で、個人的に楽しみな配合だ。

この時点で出走頭数が少ないキタサンブラック産駒だが、ドグマが新馬戦で、コナブラックが2戦目で勝利を取めた。地方競馬では、ウンがデビュー戦を圧勝し、コスモス賞に挑戦する。キタサンブラック自身が、3歳でのデビューだったことを考えると、今後の活躍が楽しみだ。キタサンブラックは2世代目も81頭が血統登録されており、初年度とほぼ同じ頭数がある。ラカリフォルニーの20(牡)は、母は札幌芝1500mが唯一の勝利だが、短距離でも安定した走りを見せていた。父の渋太さと併せて考えると、絶妙な配合に映るので最も狙いたい1頭だ。

新種牡馬の中では、ハルティトゥーラの20(牡)に注目。母がサンデー系のマンハッタンカフェ×フレンチデピュティと、好相性の配合。非サンデー系期待の新種牡馬・サトノクラウンは、血統登録が123頭と恵まれた。

●村本 浩平

このエクリプスでは、2つの連載コラム(馬創りの現場から、YEARLING STABLE Review)を執筆させていただいている筆者。他の選者の皆さんよりは牧場で取材をする機会も多く、そこで得た最新情報から選んだ3頭をピックアップさせていただいた。

レイクヴィラファームの岩崎義久専務が、「血統的にハウユーゴーンアウェイの20(メス、父ハーツクライ)に注目が集まっているかと思いますが、こちらも素晴らしい馬です」と話してくれたのが、メジロシャレードの20(メス、父ドレフォン)だった。父ドレフォンの2歳戦における産駒成績もさることながら、やはり注目したいのは祖母メジロドールの名前。しかも、メジロシャレードの20は牝馬であるだけに、活躍の暁にはメジロの良血が「Our Blood」として、更に伸びていく可能性も秘めている。

続いて紹介するのは、エステイタートの20(牡、父ジャスタウェイ)。こちらは白老ファームYearlingの下山田歩育成主任が、「産まれ落ちから抜群の馬体をしていました。今は馬体の変化が著しいですが、それだけかなりの成長力を秘めているそうです」と賛辞を送っていた。血統構成を見ると父や母だけでなく、祖母のスキップル、そして母の父のドリームジャーニーも全て白老



ラカリフォルニーの20



メジロシャレードの20

ファーム生産馬。父ジャスタウェイの産駒は、世代を重ねるにつれてオールマイティさも出てきた感もあるが、その能力を更に引き出すのは、やはり白老血脈なのかもしれない。

3頭めは今月のYEARLING STABLE Reviewとも内容が重なるが、ノーザンファームYearlingのY-16厩舎で管理されている、ビットレートの20(メス、父ヘニーヒューズ)。詳しくはコラムの本文をお読みいただきたいのだが(笑)、やはり注目したいのは父ヘニーヒューズの存在。今年のダート総合サイアーランキングでは、2位以下に圧倒的な差をつけて首位に立っており、先日行われたセレクトションセールでも、産駒が軒並み高額で取引されていた。また、今年のブリーダーズゴールドジュニアCでは、産駒のシャルフジンが2着に5馬身差をつける圧勝。仕上りの早さも証明済みであり、早い時期に勝ち名乗りをあげたのならば、悠々自適の一口ライフが待っているのだ。

最後にもう1頭だけ加えるとすると、母にとつて最後の産駒となるシーザリオの20(メス、父ロードカナロア)の名を挙げたい。この血統をよく知るY-13厩舎の堀之内剛厩舎長が、まさに手塩にかけて育てている馬。その思いを受け止めて、母のようなスターホースとなってもいい。

List of the horses selection —Part 2—

栗山 求

リーチングの20 / ディオジェーンの20 / ピンクアリエスの20 / ボロンナルワの20 / スープレットの20

平出 貴昭

アドヴェントスの20 / ライクザウインドの20 / ボロンナルワの20 / ジュモアの20

藤井 正弘

エスティタートの20 / ロスヴァイセの20 / リリウムの20 / グレイシアブルーの20

ピンクアリエスの20	シルバーステート 青鹿 2013	*サンデーサイレンス	Halo
		*ウインドインハーヘア	Wishing Well
	*シルヴァースカヤ 黒鹿 2001	Silver Hawk	Alzao
		Boubskaia	Burghclere
	キングカメハメハ 鹿 2001	Kingmambo	Roberto
		*マンファス	Gris Vitesse
*ピノシエット 栗 1995	Storm Cat	Niniski	
	*ピンクタートル	Frenetique	
		Mr. Prospector	
		Miesque	
		*ラストタイクーン	
		Pilot Bird	
		Storm Bird	
		Terlingua	
		Blushing Groom	
		Turtle Cove	

Hail to Reason 5Sx5S

●栗山 求

リーチングの20（メス・父ドウラメンテ）は、母がピーピングフォーン（全欧最優秀3歳牝馬）の4分の3妹。サドラーズウェルズとデインヒルを併せ持つドウラメンテ産駒は、アスコルターレ（マーガレットS）など4頭中3頭が勝ち上がり、残る1頭は2歳の評判馬レヴァンジル（新馬戦3着）なので、勝利を挙げるのは時間の問題。4月26日生まれても血統的な魅力が上回る。

ディオジェーンの20（牡・父モーリス）は、父と相性抜群のディーブインパクト牝馬を母に持ち、「母方にチーフズクラウンを持つモーリス産駒」というニックスにも当てはまる。後者は出走6頭中4頭が勝ち上がり、シゲルピンクルビー（フリーズレビュー）、ルークズネスト（ファルコンS）、インフィナイト（サウジアラビアアロイヤルC2着）と活躍馬が続出している。「モーリス×ディーブインパクト+チーフズクラウン」はルークズネストと同じ。

ピンクアリエスの20（牡・父シルバーステート）は、メサルティム（3勝クラス）、クロウエア（4戦2勝）の半弟。この2頭はディーブインパクト系種牡馬との交配なので、同系のシルバース

●栗山 求

テートを父に持つ本馬も計算が立つ。母の父キングカメハメハは、父としてロベルトとニジンスキーを併せ持つ繁殖牝馬と好成績を残した（ラブリデー、レッツゴードンキ、ケイアイエレガントを出す）。父シルバーステートはロベルトとニジンスキーを併せ持つので、キングカメハメハ牝馬との相性は、上記のニックスを父母ひっくり返す形となるので期待大。

ボロンナルワの20（メス・父ダイワメジャー）は、アヌラダアラ、ディーパワンサ、ガルヴィハラの半妹。母はグロリアアソング2x3という強度の牝馬クロスを持ち、繁殖牝馬として非凡な才能を示している。母方にブラッシンググルームを持つダイワメジャー産駒はニックス。体質の弱さが出なければ有望。

スープレットの20（牡・父マジエスティックウオリア）は、マイルチャンピオンシップ南部杯を連覇したベストウオーリアと4分の3同血の関係（父が同じで母同士が親子）。父は日本で種付けをした産駒が好調で、スマツシャヤ（ユニコーンS）をはじめ続々と活躍馬が誕生している。ミスターブロスベクターのクロスを持ち、サンデーサイレンスとヌレイエフを併せ持つ配合パターンは、前述のスマツシャヤとまったく同じ。

●平出 貴昭

アドヴェントスの20（メス）は伯母にオークス馬トールポビー、秋華賞馬アヴェンチュラがいるお馴染みの血統。母は2頭の全妹で、現役時代は芝1800〜2000mで3勝。上がり3F32秒台の瞬発力を持つ素質馬でした。いとこの仔で同じミッキアイル産駒のシャレーポビーも既に2勝し、チューリップ賞で5着に入った今後の有望株。サンデーサイレンス3x3は最近もフロラSのクールキャット（父スクリーンヒーロー）、函館2歳Sのナムラリコリス（父ジョーカブチーノ）などが出ており、好感が持てる配合です。

ライクザウインドの20（メス）は、ニュージラランドTを勝ったルフトシュトロームやオークス3着馬アドマイヤミヤビのめい。ディーブインパクトやレイデオロも近親にいて、お馴染みの血統です。母からは重賞級は出ていませんが、ルフトシュトロームの母でもある姉ハワイアンウインド（父キングカメハメハ）は芝1800〜2000mで3勝し、芝2000mでは1分57秒2の好時計を出した実力馬。本馬はその姉以来となるキングカメハメハ系トゥザワールド産駒ということ

京2歳Sのディーパワンサ、8月のUHB賞など現5勝のアヌラダアラ。叔母のシンハライト、リラヴァティも含め牝馬が走る血統です。母系に持つサドラーズウェルズはメジャーエンブレム、レシステンシア、ブラッッシンググルームはコパノリチャード、メジャーエンブレム、ヘイロークロスを持つのはアドマイヤマーズ、レーヌミノルと共通と、父ダイワメジャー産駒のニックスが多く詰まった配合です。2歳の早い時期からの活躍が期待できるでしょう。

●藤井 正弘

エスティタートの20（牡）父のジャスタウェイは4歳秋の天皇賞で名牝ジェンティルドナをワンサイドで下し、翌春のドバイデューティフリーの快走で2014年世界ランキングの首位にランクされました。競走馬として発揮した能力の最大値は、サンデーサイレンスの孫世代IIポスト・ディーブインパクトの現役種牡馬群という括りでもオルフェーヴルと双壁だったと思います。第3世代ダノンザキッドのホープフルS優勝でGIサイアーに上り詰めたジャスタウェイは、今年から社台スタリオンステーションを離れています。後進にレギュラーの座を奪われた形で、これが血統マーケットのシビアな評価なのでしょうが、第三者的な立場からは「逆張り」のチャンスともいえます。本馬の母エスティタートは鳥羽特別のレコード勝ちなど中京コースで3勝、その半兄フラガラッパ（父デュランダル）も強烈な追い込みで中京記念を連覇した中京巧者でした。前記した父のベストパフォーマンスタッチも左回り。祖母スキップルの父にして父系祖父ハーツクライの母の父でもある「東京のトニービン」3x4のインブリードを加味して、この父と母の組み合わせには「サウスボー×サウスボー」の相乗効果も期待

できる、という仮説を立てています。父のキタサンブラックはいわゆる一子相伝の典型とも名繁殖ウインドインハーヘアの隔世遺伝ともいえる名馬です。生産部門で現役時代のような安定性を求めるのは難しいかもしれませんが、長期的展望では自身のリメイクのような超大物を送り出す可能性大でしょう。本馬は祖母の父である早世の名種牡馬アドマイヤベガを経由した、サンデーサイレンスの3x4。ロジュニヴァース、ディアドラと、周期的に長打を放つソニックス系の属性も、この父にはフィットしている感じでは

●栗山 求

父のキタサンブラックはいわゆる一子相伝の典型とも名繁殖ウインドインハーヘアの隔世遺伝ともいえる名馬です。生産部門で現役時代のような安定性を求めるのは難しいかもしれませんが、長期的展望では自身のリメイクのような超大物を送り出す可能性大でしょう。本馬は祖母の父である早世の名種牡馬アドマイヤベガを経由した、サンデーサイレンスの3x4。ロジュニヴァース、ディアドラと、周期的に長打を放つソニックス系の属性も、この父にはフィットしている感じでは

ルキーイヤーとなる種牡馬の産駒では父サトノクラウンのグレイシアブルーの20（牡）。父系祖父マルジュと母の父サンデーサイレンスのタイムリープ的な邂逅に魅力を感じます。



ボロンナルワの20

エスティタートの20	ハーツクライ 鹿 2001	*サンデーサイレンス	Halo
		アイリッシュダンス	Wishing Well
	シビル 鹿 1999	Wild Again	*トニービン
		*シャロン	*ビューバーダンス
	ドリームジャーニー 鹿 2004	ステイゴールド	Icecapade
		オリエンタルアート	Bushel-n-Peck
スキップル 鹿 1998	*トニービン	Mo Exception	
	*ザスキート	Double Wiggle	
		*サンデーサイレンス	
		ゴールドデンサッシュ	
		メジロマックイン	
		エレクトロアート	
		*カンバラ	
		Severn Bridge	
		Nureyev	
		Shoot a Line	

*サンデーサイレンス 3Sx4D, *トニービン 3Dx4S

List of the horses selection
—Part 3—

亀谷 敬正
レオバルディアの20 / プンタステラの20 / エクストラベトルの20 / ライジングクロス
田端 到
クルミナルの20 / ワシントンレガシーの20 / レオバルディアの20
つきじ 修治
クルミナルの20 / ジュモーの20 / ラドラーダの20 / ココシュニックの20



レオバルディアの20

●亀谷 敬正

出資馬について書く場を頂戴しながら「馬券でも期待値の高い種牡馬」を紹介することがマイテーマ。昨年はリオンディーズを推奨。芝レースで人気ランクD (HPSマート出馬表参照) の産駒を買い続けるだけで、単勝回収率150%を超える大幅プラス収支(7月末現在)を実現。ついでに、「と言ってはマズイのかもしれないが(笑)」当コラムで推奨したりオンディーズ産駒(ヴァーンフリート)が新馬勝ちしてくれました。

今年、馬券の面でも注目の種牡馬にサトノアラジンとリアルスティールを推奨します。どちらもディープ×母父ストームキヤットの黄金配合。キズナ、エイシンヒカリもそうだったように、この配合は優れた種牡馬を出す黄金配合でもあります。産駒の馬券も非常にいいです。実は先日「亀谷競馬サロン」で公開した予想にて、「サトノアラジン産駒から18万馬券を的中させました。サトノアラジンは、デビューしたほとんどの産駒が人気以上に走っています。ファンの方々が思っている以上に、スピード能力と競走意欲が旺盛な馬が出やすいからです。募集馬の中で唯一のサトノアラジン産駒は、レオバルディアの20(牡)。オセアニアの各種牡馬スニツェル、世界の

名種牡馬シーキングザゴールドとの配合馬。スピード能力に優れた馬が高確率で出る配合。

リアルスティール産駒は、ディープインパクトと比べると、米国寄りのパワーがあり馬体も大きめ。成功確率の高い配合相手(繁殖牝馬)の傾向も異なりそう。
・ある程度コンパクトに馬体をまとめられる繁殖
・欧州血統の中でも、フランス指向の伸びを強化できる種牡馬を持つ繁殖
以上の傾向に合う繁殖牝馬と相性が良いのではないだろうか。

プンタステラの20(牡)は母系にグレイソヴリン系のハイエストオナー。兄、姉(父ハーツクライ、ステイゴールド、オルフェヴル)に配合された種牡馬よりも、リアルスティールのほうがパワーがあるタイプ。母馬はパワー寄りの種馬の方が相性はいいはず。兄、姉を上回る活躍を期待します。
エクストラベトルの20(メス)は母父がキングマンボ系のキングカメハメハ。キングマンボを持つ牝馬とリアルスティールを配合した場合、名牝ミエスクのクロスが発生。注目の配合パターン。ライジングクロス(メス)は母父がグリーンデザート系のケーブクロス。兄、姉はコンパクトな産駒が多いことも、リアルスティールと相性がいいでしょう。

●田端 到

どの馬に出資すればいいのか、知り合いにも時々アドバイスを頼まれる。そんなときはこう答える。「金に糸目は付けないから、大物狙いで選んでくれ」なのか、「1勝、2勝できれば十分だから、早く活躍できそうなスピード馬を」なのか、「子供の代まで楽しみたいから、繁殖牝馬になっても良さそうな牝馬がいい」のか。そのイメージを持つのが大事だと思うよ、と。

資金に余裕がある人に推薦したいのはクルミナルの20(牡)だ。母クルミナルは15年の桜花賞2着、オークス3着。半姉クナはアルテミスSでソダシの2着に入り、今年のクラシックも上位に好走。半兄アライバルは6月の新馬を楽勝し、2歳重賞の候補に名が挙がる。

この母に父エビファネアを配された本馬は、エビファネア産駒の成功パターン「サンデーサイレンスの4×3」を持つ上に、「ブラッシンググルームとニジンスキーのニックス」も持つ。これはラムタラなどで知られる相性の良い組み合わせで、エビファネアにマルゼンスキーが入るため、母の持つブラッシンググルームとニックスになる。あわよくばダービーの夢が見られる。ホンマかいな。

●つきじ 修治

父の血統と母の血統にそれぞれ存在する共通の祖先(Ⅱクロス馬)を9代まで遡って抽出し、その出現状況を詳細に分析するのが「五十嵐理論(ⅡI理論)」。この立場から推奨馬をピックアップしたい。

ディープインパクト、キングカメハメハという両巨頭の産駒が募集リストからいなくなった今年、特に注目を集める種牡馬といえばエビファネアだろう。理論上、他の種牡馬と比べてサンデーサイレンスのクロスに有効性を持たせやすい血の構造で、適応できる繁殖牝馬の範囲が広いタイプ。当クラブで募集される6頭の産駒も、それぞれ水準以上の配合レベルを示している。

その中でも、日本の硬い芝への適性という面からイチオシなのがクルミナルの20(牡、エビファネア)。昨年このコーナーで取り上げた半兄アライバルがすでに新馬勝ちを収めているが、当馬も早期からスピードレースに対応でき、さらにクラシックディスタンスを克服できるスタミナも備わっている。
ジュモーの20(牡、ルーラーシップ)はNureyev×4を前面に持つが、その他に余分な近親クロスが派生せず、非常にシンプルで配合形態となった点



クルミナルの20

ワシントンレガシーの20	リアルスティール 鹿 2012	ディープインパクト 鹿 2002	*サンデーサイレンス *ウインドインハーヘア	Halo Wishing Well Alzao Burghclere
	ワシントンレガシー 鹿 2014	*ラウスオンリーミー 鹿 2006	*フレンチデピュティ *ブルーアヴェニュー	Storm Cat Storm Bird Terlingua Mr. Prospector Miesque Deputy Minister Mitterand Classic Go Go Eliza Blue
		*クロフネ 芦 1998	*スウェプトオーヴァーボード	Endsweeper Sheer Ice
		フロールドセレッソ 芦 2004	フロールドコート	*サンデーサイレンス スプリングコート

*サンデーサイレンス 3S×4D

が見どころ。また、NureyevのスピードにGraustark、Nashuaのスタミナがアシストされ、日本の芝中距離戦で実績を残しやすいスピード・スタミナ比率を示すことも強調材料といえる。
父ルーラーシップの特徴を再現する上で、Nureyevクロスを活用することは都合が良く、この形態の活躍馬には当クラブ所属のGI馬メールドグラウス(コーフィールドC)をはじめ、リオンオン、フェアリーポルカといった重賞勝ち馬がいる。当馬はそれらと遜色のない優秀な配合内容を示しており、将来が楽しみな1頭だ。
牝馬では、ラドラーダの20(メス、ロードカナロア)が祖母内Seeking the Goldのスピードを再現しており、なかなか妙味のある血統構成の持ち主。全兄ソルドラードは、今のところ期待ほどの結果を残しているとはいえないが、これについては度重なる脚部不安の影響も小さくないはずだ。理論上はオープン級の内容と評価している。
ココシュニックの20(メス、ジャスタウェイ)はIcecapade 4×5を前面でクロスさせ、これにHail to Reason、Almahoud、Native Dancerなどをアシスト。父内Wild AginとHaloのスピードがシンプルに再現された点に妙味がある。非常にバランスの良い配合形態で、きっちり開花すれば牝馬重賞戦線での堅実な走りが期待できるだろう。

List of the horses selection
—Part 4—

須田 鷹雄

エンジェルフォールの20 / シンハディーバの20 / ビースエンブレムの20

美野 真一

ナスケンアイリスの20

山田 康文

シャンドランジュの20 / ルージュバックの20 / キャヴァルドレの20 / バウンスシャッセの20



ビースエンブレムの20

●須田 鷹雄

馬券でいう穴っばいところとか、価格・人気以上に走る出資馬を追求しようという場合、新しい種牡馬を狙うのがよいのではと考える。そこで今回は、初年度産駒が2歳以下の種牡馬から3頭をピックアップしてみた。

1頭めはドレフォン×エンジェルフォール(牡)。ドレフォンはスタートダッシュを決めてセリでも既に人気種牡馬化しているが、このあとも良い結果が続くと期待している。ストームキャットの血は、現在の日本でサンデーサイレンスに次ぐ重要な存在。ドレフォンについては、もちろん距離の限界はあるだろうが、芝ダート兼用の使い勝手の良さもある。

母エンジェルフォールは1戦のみに終わったが、そのぶん優れた遺伝子を隠しもっている可能性があり、ハービンジャー、ノヴェリスト、キンシャサノキセキと全く趣旨の異なる種牡馬から勝ち馬を出しているあたりからも、繁殖牝馬としてのポテンシャルを感じる。名牝系だけに、長打に繋がる可能性もある。

2頭めはキタサンブラック×シンハディーバ(牝)。キタサンブラックは新馬戦開始からここまで産駒が奮わずあまり良く言われていないが、早い時期・短い距離に対応できないのは仕方

ないところ。そして、競馬界の早い段階における種牡馬評はそうアテになるものでもない。8月15日には待望の新馬戦優勝馬も誕生したし、今後真価を発揮してくれると期待する。

本馬については、シンハディーバという繁殖に期待している面もある。シンハディーバの後継で貴重品のウォーエンブレム牝馬。まだ大物は出していないが、兄弟の当歳2歳時馬体の印象としては良かった。どこかでヒット作を出す繁殖牝馬ではないか、とヤマを張りたい。エンジェルフォールもそうだが、「小当たりの後の大当たり」は出資馬選びでもセリでも、ひとつの狙い目パターンだ。

3頭めはサトノダイヤモンド×ピースエンブレム(牝)。これも母の父がウォーエンブレムである。サトノダイヤモンドは初年度産駒が1歳なので競走成績は参考にできないが、今年のセレクトセールでも良く見せる仔が多かった。母の初仔は1戦未勝利、現3歳のエターナルピースも新馬4着のあと復帰が遅れているが、本馬については父が替わって結果もガラリと変わる可能性もある。母はダートで4勝だったが芝でも好走はしていたし、この父ならばむしろ芝馬に育つ可能性も十分。距離もこなすだろう。母や兄弟に出資していた人は、もう少しこだわってみるのがよいのではないだろうか。

●美野 真一

私の本職は映像関連で、種牡馬DVDやセール上場馬のウォーキング動画や他のクラブの募集馬カタログなども撮影しています。撮影は年間100頭をはるかに超える頭数になります。撮影の場合は1頭の馬と向き合う時間が30分以上になるので、性格などもわかってしまいます。馬が速くゴールに到達する方法は、たったの2通りしかありません。回転を速くするか、ストライドを大きくするか2通りです。

ロードカナロア産駒は運動神経がいいのが特徴です。ロードカナロア自身も、とても歩くのが速いです。歩いて速い馬は運動神経がいいので、走っても速いです。ロードカナロア産駒を選ぶ時は、歩きの速い馬を選んだ方がいいでしょう。回転の速い馬が能力で距離も対応するのが、ロードカナロア産駒の一流馬だと思っています。

もう1頭、ハービンジャー産駒の選び方も書いてみたいと思います。ハービンジャー自身を見ると、蹄、球節、その他の関節や顔が大きい馬が多いのですが、こういう馬ぶりのいいタイプに飛びつくと、洋芝1勝というパターンが多いです。蹄や球節が小さめの造りをしている馬は手先の重さがなく、軽い芝にも対応できます。ハービンジャー産駒はディアドラ、ノームコア、

モズカッチャンなど牝馬に活躍馬が多いのも、牝馬の方が造りが小さいためだと思っています。立派すぎない馬を選びましょう。

新種牡馬でお勧めは、リアルスティールとサトノダイヤモンドだと思っています。どちらも遺伝力が強く、似ている産駒が多いです。リアルスティール産駒は総じて柔らかくて、手先が軽いです。芝の時計勝負や、瞬発力勝負にも強そうです。性格的にも優等生タイプが多いので、アペレージが出ると思いますが、配合の近いキズナは、産駒に母の特徴が出ていっているタイプが多いですが、リアルスティールは同じタイプが多く、得意分野がはっきりしてくるようになっています。サトノダイヤモンド産駒は、父の歩き方に似ている馬が多いです。プライドが高い面があるので、多少ホースマンを選ぶかもしれませんが、気持ちの強さは武器になると思います。

最後に、私が募集馬から推奨する馬は、セレクトションセールで落札したナスケンアイリスの20(牡)です。実は、この馬のセールの動画撮影をしました。先述のように撮影すると貸し切りで30分以上馬と向き合うので、その馬のことをかなり理解できます。上記のロードカナロア産駒の走る馬に該当すると思います。運動神経が良くてパワーもあり、すでに体幹がしっかりしていますので、早期からの活躍を期待します。

●山田 康文

シャンドランジュの20(牡)

5月生まれの牝馬ながら、1億3500万円で落札されたエリカボンシャンの半弟。母はハルーフソングの仔だから名血だ。不運続きの現役生活だったが、その数少ないキャリアの中でさすが良血という片鱗を見せてくれた。初仔を出産後、1年間を充電期間に充てて、本馬を出産している。配合相手がヘニーヒューズというのは少々意外だったが、改めて見るとシャンドランジュの血統表内にはヘニーヒューズが求める血脈が散りばめられており、なかなかの好配合馬だ。こうした優れた血統が筋肉量であるとか、骨格といった馬体に表現されているのが前提条件となるが、楽しみな1頭だ。

ルージュバックの20(牡)

ルージュバックが主役の1頭を務めた2015年牝馬クラシック戦線はレツツゴードンキにミッキークイーン。マリアライトにクルミナル、クイーンズリングなどレベルの高い世代だった。その中であってルージュバックは桜花賞1番人気、オークス2着。GIタイトルには縁がなかったが、マンハッタンカフェ×ジンジャーパンチ(米国古牝馬チャンピオン)という血統どおりに、成長力も兼備していた中距離馬だった。配合相



ナスケンアイリスの20



キャヴァルドレの20

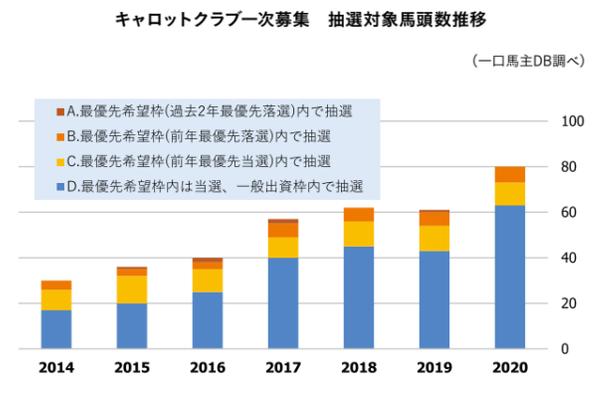
手にはスクリーンヒーロー×カーネギーという血統構成のモーリスが選ばれた。血統表だけを見ればスピード不足という懸念もなくはないが、モーリス産駒はターボエンジン搭載車のようなスピードを持つ馬が多く、この配合馬はそんなイメージを抱かせてくれる。

キャヴァルドレの20(牡)

仏国産の母キャヴァルドレはカルヴァドス賞(仏GIII)に勝ち、海を渡ったBCジュヴェナイルフィリーズターフ(米GI)では勝ち馬から1馬身半差の3着だった。その父サンデーブレイクはキズナの半兄。母系そのものは見るべきものが少ないがキャヴァルドレ自身は仕上がりが早く、高い能力を持った競走馬だった。ウォーフロントを受胎した状態で英国タタソールズ社の繁殖セールにおいて65万ギニーで落札され、日本の地を踏んだ。ミスタープロスペクター3×5がメインクロスで、薄いながらもリボー5×5があって、繁殖牝馬として妙。軽いスピードを武器とするウォーフロントとは相性も良さそうだ。

バウンスシャッセの20(牡)

母は中距離重賞3勝馬でオークス3着だが、ムーンクエイクやコントラチェックの半姉だからスピード能力を内在させているはず。エピファネイアのスタミナと底力によく似合う。



「その馬に出資できそうか」という観点も重要になってきていることがうかがえます。

抽選対象馬は増加傾向

その要因については、具体的にキャロットクラブのデータを見ていきたいと思います。右の図は会員向けに公表されている「一次募集における抽選対象馬」の頭数を、2014年から昨年までの抽選条件別に集計したグラフです。なお、母馬優先対象馬は、母馬優先権が無い場合の条件で集計しています。見ての通り、抽選対象馬は年々増加傾向にあります。2014年には30頭

程度だったのが、2017年で大きく増加し全体の過半数を突破した後、さらに昨年においても大幅な伸びを見せ、80頭もの馬が一次募集において抽選対象となりました。

もちろん、クラブが人気になるということは、過去の募集馬の活躍が積み重なった結果であり、それ自体は好ましいことだと言えます。ただその中で、こうした出資環境の変化が起きている以上、出資検討する側としても、変化に対応して「出資戦略」をアップデートしていく必要があります。

0頭です。つまり、x2抽選馬の出現は、全体の人気動向ではなく、人気特に集中した募集馬の有無に左右されると言えます。

「B. 前年最優先落選(以下、x1)」での抽選対象馬は、2014年で4頭から、2017年で6頭とやや増加したものの、そこからはほぼ横ばいで、2020年でも7頭です。

そして、「C. 前年最優先当選(以下、x0)」での抽選対象馬も、2014年で9頭に対し、2020年では10頭と、毎年10頭前後で安定しています。

制度上、参加者および応募総数が増えると思数関数的に増加する性質を持つ一般出資枠に対し、最優先希望枠は一人一枠であるため、今後も急激にこの傾向が変わることはおそろくないと考えられます。

つまり、票を読み、最優先希望枠を的確に使えば、現在の状況下でも毎年希望する馬1頭を安定して確保することが、まだ十分に可能であるということです。一般出資枠での出資難易度が上がっていることを踏まえると、相対的に「最優先カード」の重要性が増しているとも言えるでしょう。

ただし、クラブ会員にとっては出資馬を確保して一件落着ではなく、なにより期待するのは将来の活躍です。そ

ここで続いては、募集時の人気と競走成績の関係データをデータで確認しながら、今後の出資戦略を考えていきましょう。

募集人気と成績の関係は？

下の表は、2015年〜2019年のキャロットクラブ中央募集馬5世代について、先ほどと同様に一次募集における抽選条件別にグループ分けして、その競走成績を集計したものです。

募集価格平均(万円)	春クラシック出走馬率	GI馬率	重賞馬率	2勝馬率	勝ち上がり率	頭数
8433	16.7%	16.7%	16.7%	66.7%	83.3%	6
5733	20.8%	12.5%	29.2%	54.2%	62.5%	24
3988	5.9%	2.0%	5.9%	35.3%	58.8%	51
3310	1.2%	1.8%	4.1%	30.8%	55.0%	169
2465	2.7%	0.7%	2.0%	23.8%	47.6%	147

やはり全体的には、一次募集時の人気が高いほど、競走成績も優秀であるという傾向が見られます。その中でも、人気を集めた表中Aの「x2抽選馬」、Bの「x1抽選馬」の成績はめざましく、特に大物の出現確率を示す重賞馬率・GI馬率は特筆すべき水準です。

また一方で、これらの人気募集馬は、募集価格も非常に高い水準にあります。昨年紹介したように、キャロットクラブでは募集価格と競走成績が素直に連動しやすい傾向にあります。

つまり、A・Bの人気募集馬は、価格が高い上に、さらに募集人気も高かった集団ということで、この好成绩も驚くには当たらないという見方もできるかもしれません。

一次募集における人気 (母馬優先対象馬は母馬優先権がない場合の条件で集計)

募集価格平均(万円)	春クラシック出走馬率	GI馬率	重賞馬率	2勝馬率	勝ち上がり率	頭数
8433	16.7%	16.7%	16.7%	66.7%	83.3%	6
5733	20.8%	12.5%	29.2%	54.2%	62.5%	24
3988	5.9%	2.0%	5.9%	35.3%	58.8%	51
3310	1.2%	1.8%	4.1%	30.8%	55.0%	169
2465	2.7%	0.7%	2.0%	23.8%	47.6%	147

キャロットクラブ中央募集馬 一次募集人気別成績指標 (2014年産〜2018年産/成績2021年7月25日現在/一口馬主DB調べ)

今後の出資戦略を考えてみましょう。まず、なにより「大物に出会う可能性を上げる」ことを重視されるのであれば、「x2」もしくは「x1」を1〜2年かけてためた上で、A・Bに該当するような高額人気馬を狙う戦略が確率的には理にかなっています。

レイデオロに代表されるAの「x2」抽選馬の出現は、先述のように近年でも稀であるため、「x2」までためれば翌年はほとんどの募集馬に出資可能であるという安心感もあります。

ただし、この戦略の場合、「x」をためる年においては、以前よりも一般出資枠で希望馬を確保することが困難になっている点に注意したいところでおさらず。

◆◆◆ 毎年希望馬を確実に取りに行くか、数年おきに大物を狙うのか。

もちろん、クラブ会員の方の出資の楽しみ方には「これが正解」という王道はありません。「自身の出資ポリシーに合いながら、その年の状況によって柔軟に手法を変えても良いでしょう。さらには、母馬優先権の保有状況次第では、より出資戦略にも幅が出るはずですよ。

◆◆◆ 出資環境の変化により、票読みがこれまで以上に重要な時代になっていることは間違いありません。クラブの状況により、この傾向は今後さらに強まることも予想されます。

◆◆◆ 個人馬主のセリ市やプロ野球のドラフト会議などのように、公平かつ厳格なルール下での権利の争奪戦には、娯楽としての面白さもあります。会員の皆さまも、この悩ましくも至福の時を、ぜひ今年もお楽しみください。

これから出資戦略を考える さて、これらのデータをヒントに、

表の通り、実はCの「x0抽選馬」と、Dの「一般抽選馬」の間には、他に比べ大きな成績の差はありません。これによりたとえば、一般抽選圏内の中で比較的人気な馬を、「x0」で毎年確実に取りに行くのも、一つの有効な戦略と言えます。表の上側を見ると

感覚がマヒしてしまいがちですが、C、Eのゾーンも、一般的な基準で見れば高い数値を示しています。近年でも、エフフォーリアやメルドグラスなどがDの「一般抽選馬」、つまり既会員が最優先で応募さえすれば出資が可能で、ともに募集価格は2800万円と牡馬としては比較的手頃価格でした。



クオリティロード



ガンランナー



サトノダイヤモンド

Review of Stallions

国内種牡馬
—本募集世代が初年度産駒—
サトノダイヤモンド/リアルスティール/サトノクラウン
三輪 圭祐

海外種牡馬
—本募集で産駒がラインアップ—
ガンランナー/クオリティロード/ウォーフロント
合田 直弘

クオリティロードは、父ガンランナーは、17年の全米年度代表馬である。同世代にアロゲイトという怪物がいて、18年に種牡馬入りした際の種付け料は、アロゲイトが7万5千ドルだったのに対しガンランナーは7万ドルと、競走馬としての評価はアロゲイトの方が僅かながら上というの一般的な見方だった。ところが産駒が生まれて市場に出回ると、昨年の北米1歳市場におけるガンランナーの初年度産駒は平均価格が23万8569ドルで、アロゲイトの22万5167ドルを上回ったのだ。さらに今年春に北米各地で行われた2歳市場における平均価格も、ガンランナーの28万6933ドルに対しアロゲイトは26万8534ドルと、ガンランナーの方が高かった。競走馬としての序列が、マーケットにおいては逆転しているわけで、つまりそれだけガンランナーの仔の出来が素晴らしいのである。そして日本でも、ガンランナーの初年度産駒の1頭であるグランアプロウソが札幌で新馬勝ちを収め、早速に高い日本適性を示したのは、心強い限りである。

父ガンランナーは、17年の全米年度代表馬である。同世代にアロゲイトという怪物がいて、18年に種牡馬入りした際の種付け料は、アロゲイトが7万5千ドルだったのに対しガンランナーは7万ドルと、競走馬としての評価はアロゲイトの方が僅かながら上というの一般的な見方だった。ところが産駒が生まれて市場に出回ると、昨年の北米1歳市場におけるガンランナーの初年度産駒は平均価格が23万8569ドルで、アロゲイトの22万5167ドルを上回ったのだ。さらに今年春に北米各地で行われた2歳市場における平均価格も、ガンランナーの28万6933ドルに対しアロゲイトは26万8534ドルと、ガンランナーの方が高かった。競走馬としての序列が、マーケットにおいては逆転しているわけで、つまりそれだけガンランナーの仔の出来が素晴らしいのである。そして日本でも、ガンランナーの初年度産駒の1頭であるグランアプロウソが札幌で新馬勝ちを収め、早速に高い日本適性を示したのは、心強い限りである。

クオリティロードは、父ガンランナーは、17年の全米年度代表馬である。同世代にアロゲイトという怪物がいて、18年に種牡馬入りした際の種付け料は、アロゲイトが7万5千ドルだったのに対しガンランナーは7万ドルと、競走馬としての評価はアロゲイトの方が僅かながら上というの一般的な見方だった。ところが産駒が生まれて市場に出回ると、昨年の北米1歳市場におけるガンランナーの初年度産駒は平均価格が23万8569ドルで、アロゲイトの22万5167ドルを上回ったのだ。さらに今年春に北米各地で行われた2歳市場における平均価格も、ガンランナーの28万6933ドルに対しアロゲイトは26万8534ドルと、ガンランナーの方が高かった。競走馬としての序列が、マーケットにおいては逆転しているわけで、つまりそれだけガンランナーの仔の出来が素晴らしいのである。そして日本でも、ガンランナーの初年度産駒の1頭であるグランアプロウソが札幌で新馬勝ちを収め、早速に高い日本適性を示したのは、心強い限りである。

ガンランナー クオリティロード
ウォーフロント

グローバルビューティの20(メス)の父ガンランナーは、17年の全米年度代表馬である。同世代にアロゲイトという怪物がいて、18年に種牡馬入りした際の種付け料は、アロゲイトが7万5千ドルだったのに対しガンランナーは7万ドルと、競走馬としての評価はアロゲイトの方が僅かながら上というの一般的な見方だった。ところが産駒が生まれて市場に出回ると、昨年の北米1歳市場におけるガンランナーの初年度産駒は平均価格が23万8569ドルで、アロゲイトの22万5167ドルを上回ったのだ。さらに今年春に北米各地で行われた2歳市場における平均価格も、ガンランナーの28万6933ドルに対しアロゲイトは26万8534ドルと、ガンランナーの方が高かった。競走馬としての序列が、マーケットにおいては逆転しているわけで、つまりそれだけガンランナーの仔の出来が素晴らしいのである。そして日本でも、ガンランナーの初年度産駒の1頭であるグランアプロウソが札幌で新馬勝ちを収め、早速に高い日本適性を示したのは、心強い限りである。

ガンランナー クオリティロード
ウォーフロント

グローバルビューティの20(メス)の父ガンランナーは、17年の全米年度代表馬である。同世代にアロゲイトという怪物がいて、18年に種牡馬入りした際の種付け料は、アロゲイトが7万5千ドルだったのに対しガンランナーは7万ドルと、競走馬としての評価はアロゲイトの方が僅かながら上というの一般的な見方だった。ところが産駒が生まれて市場に出回ると、昨年の北米1歳市場におけるガンランナーの初年度産駒は平均価格が23万8569ドルで、アロゲイトの22万5167ドルを上回ったのだ。さらに今年春に北米各地で行われた2歳市場における平均価格も、ガンランナーの28万6933ドルに対しアロゲイトは26万8534ドルと、ガンランナーの方が高かった。競走馬としての序列が、マーケットにおいては逆転しているわけで、つまりそれだけガンランナーの仔の出来が素晴らしいのである。そして日本でも、ガンランナーの初年度産駒の1頭であるグランアプロウソが札幌で新馬勝ちを収め、早速に高い日本適性を示したのは、心強い限りである。



ウォーフロント

サトノダイヤモンドは、父サトノクラウンは、17年の全米年度代表馬である。同世代にアロゲイトという怪物がいて、18年に種牡馬入りした際の種付け料は、アロゲイトが7万5千ドルだったのに対しサトノクラウンは7万ドルと、競走馬としての評価はアロゲイトの方が僅かながら上というの一般的な見方だった。ところが産駒が生まれて市場に出回ると、昨年の北米1歳市場におけるサトノクラウンの初年度産駒は平均価格が23万8569ドルで、アロゲイトの22万5167ドルを上回ったのだ。さらに今年春に北米各地で行われた2歳市場における平均価格も、サトノクラウンの28万6933ドルに対しアロゲイトは26万8534ドルと、サトノクラウンの方が高かった。競走馬としての序列が、マーケットにおいては逆転しているわけで、つまりそれだけサトノクラウンの仔の出来が素晴らしいのである。そして日本でも、サトノクラウンの初年度産駒の1頭であるサトノクラウンが札幌で新馬勝ちを収め、早速に高い日本適性を示したのは、心強い限りである。

サトノダイヤモンドは、父サトノクラウンは、17年の全米年度代表馬である。同世代にアロゲイトという怪物がいて、18年に種牡馬入りした際の種付け料は、アロゲイトが7万5千ドルだったのに対しサトノクラウンは7万ドルと、競走馬としての評価はアロゲイトの方が僅かながら上というの一般的な見方だった。ところが産駒が生まれて市場に出回ると、昨年の北米1歳市場におけるサトノクラウンの初年度産駒は平均価格が23万8569ドルで、アロゲイトの22万5167ドルを上回ったのだ。さらに今年春に北米各地で行われた2歳市場における平均価格も、サトノクラウンの28万6933ドルに対しアロゲイトは26万8534ドルと、サトノクラウンの方が高かった。競走馬としての序列が、マーケットにおいては逆転しているわけで、つまりそれだけサトノクラウンの仔の出来が素晴らしいのである。そして日本でも、サトノクラウンの初年度産駒の1頭であるサトノクラウンが札幌で新馬勝ちを収め、早速に高い日本適性を示したのは、心強い限りである。

サトノダイヤモンドは、父サトノクラウンは、17年の全米年度代表馬である。同世代にアロゲイトという怪物がいて、18年に種牡馬入りした際の種付け料は、アロゲイトが7万5千ドルだったのに対しサトノクラウンは7万ドルと、競走馬としての評価はアロゲイトの方が僅かながら上というの一般的な見方だった。ところが産駒が生まれて市場に出回ると、昨年の北米1歳市場におけるサトノクラウンの初年度産駒は平均価格が23万8569ドルで、アロゲイトの22万5167ドルを上回ったのだ。さらに今年春に北米各地で行われた2歳市場における平均価格も、サトノクラウンの28万6933ドルに対しアロゲイトは26万8534ドルと、サトノクラウンの方が高かった。競走馬としての序列が、マーケットにおいては逆転しているわけで、つまりそれだけサトノクラウンの仔の出来が素晴らしいのである。そして日本でも、サトノクラウンの初年度産駒の1頭であるサトノクラウンが札幌で新馬勝ちを収め、早速に高い日本適性を示したのは、心強い限りである。

社台スタリオンステーション繁養
サトノダイヤモンド
リアルスティール サトノクラウン

産駒が初募集となる注目の種牡馬は3頭。まずはディープリンパクト後継馬である2頭、サトノダイヤモンドとリアルスティールについて。いずれも素晴らしい馬であることは共通していますが、活躍する産駒の配合パターンや馬体、動きの見方には、重なる部分はあるにせよ、大きな括りとしては違つてきそうだと考えています。サトノダイヤモンドは、父の後継馬の中では長めの背中と、傾斜の深い肩関節や飛節が特徴的で、各関節の可動域も大きく、ゆとりのあるダイナミックな動きが目立つタイプ。立ち姿を見ると、横長な長方形に映ります。対してリアルスティールは、肩関節の傾斜や飛節の角度が浅く、父ディープリンパクトの姿と重なる点が多いものの、父よりも脚長で重心がやや高く、全体のシルエットは正方形に映ります。歩く姿は関節を大きく動かしてしなる、というよりは、関節の動きを小さく抑えた回転の速いタイプで、歩く程度では少々動きが窮屈にも感じますが、走りに転じると極端に可動域が大きくなるタイプです。この特徴をふまえ両者の産駒を見るうえでのポイントを考えます。その前に前提として、種牡馬が持つ体

を動かす能力、運動神経の遺伝は、強ければ強い方が好ましく、「強過ぎる」ぐらいがもちろん理想ですが、運動神経と身体的特徴の絶妙なバランスにより力を発揮したであろう父の身体的特徴については、そのバランスを崩さないために、父らしさを不足なく受け継ぎ、かつ、「父よりも〇過ぎない」産駒を選ぶ方が、「運動神経」と「身体的特徴」のバランスを保ちやすいのではないかと考えます。前者のサトノダイヤモンドは「父よりも各関節の傾斜が浅過ぎないこと、歩く動作ではその動きが小さくなり過ぎないこと」がポイントだと思えます。そして、配合面からは、前者には走りの回転が速くスプリント戦で活躍したような馬を送る牝系や、高速小回り戦に強い典型的な米国血統。後者にはストライドを活かすような広い競馬場の中長距離まで対応した牝系、そのようなレースを得意とした欧州血統を配合する方が、バランスを保つためという考え方においては、無難な選択になりそうだと推測します。と、検討方法をまとめたところで、募集馬たちに目を移しましょう。当然、配合する時点で考えられていますから、該当する馬ばかり。私はその中でも、ピースエンブレムの20(メス)とライジ

ングクロス(メス)が気になります。次に、非サンデーサイレンス系の期待馬サトノクラウン。本馬は体高が160cmと、当場では2番目に背の低い馬ですが、それを感じさせない大きく全身を伸ばして弾むような動きや、しなやかで厚みのある筋肉が特徴的。例えとして用いられる「ゴムマリのような…」というタイプといえるでしょう。そして先ほどまでの「特徴を極端にし過ぎない」という考えを変えて、次は本馬独自の個性と繁殖牝馬の個性の相乗効果をもたらすのはどんな配合かという視点で募集馬を見ますと、私はバルテイトウーラの20(牡)に注目したくなります。コンパクトな馬体が繰り出す力強いゴムマリのような動きを、母父マンハッタンカフェのスケールの大きさと母父フレンチデビューティヤ、その後ろに構えるノーザンテーストの機動力で…。と都合よく考え、府中の坂を登り大外へ持ち出し、ビッグストライドで先頭を強襲するというシーンを想像してしまいます。

(三輪 圭祐)



丹下 日出夫

母体の血統背景、実績・可能性をベースに、配合種牡馬とどのようにマッチするかを類推中。ディープリンパクト産駒は不在、燃えます。

古谷 剛彦

産駒頭数の多い2世代目の種牡馬から検討。他の方々と違う視点で、期待の新種牡馬を含め、誰もが出資可能な価格帯からピックアップしました。

村本 浩平

立ち写真を見る際は、馬体のどこに父や母父といった血統の特徴が出ているかをチェック。動画ではハンドラーとの意思疎通を確認しています。

栗山 求

長年の研究で培った配合観と、数値による血統的相性をベースに配合の良さ悪しを見極め、出資しても後悔しないと言い切れる馬のみピックアップした。

平出 貴昭

サラブレッド血統センター
血統は過去の活躍馬を参考に、配合の相性や牝系の優秀さを重視しています。昨年に引き続き、「募集価格が低めの好配合馬」をテーマに選びました。

藤井 正弘

サラブレッド血統センター

血統関連の物書きを始めて以来、長く自主規制しているペーパーオーナーゲームのつもりで選びました。あくまでも個人的な趣味嗜好です。

亀谷 敬正

「血統表は能力のデータベース」。サンプルが少ない新種牡馬こそ、おいしいのです。出資馬選びだけではなく、馬券の参考にもなれば幸いです。

田端 到

難しい配合理論よりも「ディープリンパクトが入っていればいいんじゃないの？」が第一。あとは父と母系の相性や、母馬の若さを重視します。

つきじ 修治

I理論分析を通じて中小の馬主・生産者を支援するペガサス・ビューローを主宰しています。今回の原稿が皆様の出資馬選びの一助になれば幸いです。

須田 鷹雄

未知の魅力に賭けて初年度産駒が2歳以下の種牡馬から選択。母馬については名牝系を尊重、貴重品である母の父ウォーエンブレムにも注目した。

美野 真一

種牡馬の特徴を意識して見るようにしている。蹄、性格は特に遺伝するので馬体だけでなく能力を競馬で出せる性格をしているのかを重視している。

山田 康文

優れた競走馬とは旺盛な競走意欲と、健全な馬体。そしてそれらを余すことなく活かしてくれるスタッフによって生み出される。そう信じています。

一口馬主DB

「一口ライフをもっと楽しく！もっと便利に！」をモットーに、出資検討や出資馬の管理に役立つツールやデータ、読み物を提供しています。

List of the horses selection

ご執筆いただいた
皆さんの馬選びのモットー